

第16回 市民参加懇談会コアメンバー会議
－市民参加による政策検討会議－
議事録

1. 日 時：平成15年2月3日（火） 15：00～17：00
2. 場 所：中央合同庁舎第4号館 2階 共用第3特別会議室
3. 出席者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、小川委員、
小沢委員、東嶋委員、中村委員、松田委員、吉岡委員
（原子力委員会）近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員
（内 閣 府）藤嶋参事官、後藤企画官、犬塚参事官補佐
4. 議 題：（1）『原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画』の策定準備に伴う
市民参加懇談会の活動について
（2）市民参加懇談会の福島開催について
（3）その他
5. 配布資料
資料市懇第16-1号 原子力長期計画策定準備に伴う市民参加懇談会の活動について
（検討用ペーパー）
資料市懇第16-2号 「市民参加懇談会 in 福島」開催について（検討用ペーパー）
第15回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

6. 審議事項

○はじめに、初めて本会議に出席する原子力委員会の各委員より、以下のとおりあいさつした。

（近藤原子力委員長）

- ・ 1月6日から始動し、お手元の配付資料にあるとおり、新年の「年頭に当たっての所信」というものをまとめた。委員会設置法を見ると、原子力委員会というのは原子力の研究、開発及び利用の活動の民主的運営のために置くとなっており、それをまさに正直に受け、我々としてはいわば民主的手続を踏まずして権威なし、原子力委員会に権威あらしめるためにも、民主的手続を大事にするということをまず謳い、かつ、さまざまな議論については共有すべき原則、そしてそれに基づく限りの定量的な評価を踏まえてさまざまな決定を行っていくことにしたいということを謳っている。さらに進んで現在の諸問題を見るに、それぞれの方が不確実な未来へ向かってさまざまな活動をなすところ、当然にいろいろリスク要因があることを踏まえて、それぞれのリスクの大きさについて正しく理解し、そのことについて利害関係者と共有し、当事者としてこれを適当な水準に抑制するリスク管理をやっていただきたい。我々もまた、政策について未来を語る以上、そのリスクについて適宜評価をし、見直していくということを最大限やっていきたいと謳っている。
- ・ そして、今どういう重要なことがあるかなということについてリストし、最後に「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」（以下、「長計」という）について、これが制定されたときから環境が変わっていることもあり、また行政の世界でも、エネルギー基本計画があり、あるいは総合科学技術会議があることを踏まえて、まずは

長計はいかなるものであるべきか、その何を変えるべきかということについて考える予備的な検討を始めますということを決めた。その場合に、さまざまな方法を通じて多くの方のご意見を得たいが、この市民参加懇談会においても、ぜひそういう意見の吸収の場所としてご尽力いただきたく思っているのでもよろしくお願いいたします。

- ・ 以上は、いわばフォーマルな、私ども委員会の立場を申し上げたところであるが、個人的には、今、隣から原子力ばかりやっていると冷やかされたが、まさに長い間、原子力ばかりで仕事をしてきた。「だからそういう原子力ばかりやってきた人なのに、どうしようもなかったね」と最後に言われぬようにしっかりやりたいと思う。

(木元座長)

- ・ きょうは「あいうえお」順でコアメンバーが並んでおり、その間に「あいうえお」順で各委員に入っていたが、続いて、齋藤委員、今の近藤先生より少し短めでお願ひしたい。

(齋藤原子力委員長代理)

- ・ フォーマルなことは、今もう近藤委員長の方から話があったので、フォーマルな話はなしということにさせていただく。
- ・ 原子力ばかりというお話もあったが、私も原研に約 38 年おり、そしてこちらへ来て原子力ばかりである。原研に入ったのは、ちょうど原研創立 10 周年のときで、要するに日本で原子力研究を始めて 10 年の年であった。その後、年を追うに従って、原子力をやっていくというのがだんだん難しくなっているが、入ったときは、全くそういうことを予想だにしなかった。私は、この「市民参加懇談会」が有効に活用されて、一般国民に原子力というものが自然体で受け入れられるようになれば、研究者も研究に専念できるようになるのではないかとと思っている。皆様と色々な議論をさせていただいて、勉強させていただき、今申し上げたように、我々がいる間に、幾らかでもそういう方向に近づけていけたらと思っている。

(木元座長)

- ・ それでは続いて、前田委員。

(前田原子力委員)

- ・ 私は、関西電力におり、二十数年原子力をやっていた。よく、原子力は国策民営と言われるが、その民営の方をずっとやってきて、近年、特に難しい状況がずっと続いているわけだが、やはり原子力を進めていく上で、社会の方々あるいは地元地域の方々と相互に理解し合うことの重要さを、身にしみて感じている。
- ・ これから、変わった立場でまた原子力に取り組むということで、俗な言い方をすれば、身の引き締まる思いがしている。全力を尽くして頑張りたいと思っているので、よろしくお願いいたします。

(木元座長)

- ・ では、町委員。

(町原子力委員)

- ・ 私は、原研約 25 年、国際原子力機関 12 年、アメリカ 2 年と色々なことをやってきたが、国際原子力機関のときには、途上国協力など非常に楽しいことがたくさんあり、もちろん北朝鮮問題とかイラク問題などもずっとオブザーブさせてもらい、その大変さもあったが、日本に帰ってきてみると、やはり日本の原子力は、今やまさに

大変なときに差ししかかっており、原子力委員としてできるだけ日本の原子力のためにやっていきたいと思っている。広報ということからいうと、実は私も日本に帰ってきてから、日本原子力産業会議で、原子力をあまりご存じない方に対する原子力の役割についての説明というものをやってきており、「市民参加懇談会」という活動は非常に大事だと思っている。

(1) 『原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画』の策定準備に伴う市民参加懇談会の活動について

○ 事務局より、資料市懇第 16-1 号について説明した。

(木元座長)

- ・これまで福島で開催しようということでご議論いただいていたが、あちらの議会の様子や東京電力問題といったいろいろなことを踏まえて、5 月半ば過ぎぐらいが妥当かなというのが現地との感触である。
- ・コアメンバーの中からも 2 月、3 月で、我々市民懇としてやることはないだろうかというご提案があったが、そんな中、「長期計画」の策定準備を開始することとなった。先ほど、事務局からご説明があったように、「長計についてご意見を聴く会」というのを立ち上げた。「市民参加懇談会」は、市民から意見を聞く機能を持っているので、「長計についてご意見を聴く会」とは別に、市民参加懇談会の別バージョンとして、今までの流れの中から少し違う形で長期計画にかかわることはできるだろうと思っている。やはり広く「長期計画」のベーシックなところを、市民参加懇談会で意見を伺うことができるという私なりの考えもあり、事務局、近藤委員長と相談した。
- ・まず、一般の方々が「長期計画」をどう見ているのかということがある。また「長期計画」を全く知らない場合もあるだろうし、それから原子力委員会がなぜ「長期計画」をつくるのかということもあると思う。全くつくる必要がないというご意見もあるだろう、そういうご意見をやはり「市民参加懇談会」で伺っておく必要があると思う。なぜならば、原子力行政を遂行していくときには、いつも長計、長計という言葉が出てくるわけである。水戸黄門の印籠みたいな「目に入らぬか」的なものなのか、「長期計画」はどうあったら良いのか、あるいはなくても良いのか、そういうことをご議論いただく場として、「市民参加懇談会」が最もふさわしいという結論に達した。
- ・そこで、こういうペーパーを作成して、きょう皆さんにお諮りしたいということである。したがって、福島は福島でやっていくが、「長計についてご意見を聴く会」と並行して、「市民参加懇談会」が「市民参加懇談会」として伺えるいろいろな意見を拾い上げていこう、伺っていこう、そして、それを策定のプロセスに反映させていこうということである。
- ・この資料は、皆さんに事前にご案内を差し上げていたので、吉岡委員の方からご意見をペーパーでいただいた。吉岡委員のご意見は、「市民参加懇談会」としてこういうふうに意見聴取の場を設けることに賛成するということである。ご意見をまず幅広く伺う場合に、例えばご意見募集みたいな形をとって、そしてそれを我々がテーマごとに分け、セレクトし、その中から幾つか集約して、それを代表するご意見を伺う。その場合、円卓風にしてご意見を伺うとか、いろいろな意見が出ているので、まず 1 つ 1 つご議論いただかなければならない。具体的なことは別にして、このような趣旨で

「市民参加懇談会」を開催することに関しては、ご異論はないか。私は、やはり「市民参加懇談会」の最初に掲げた柱の中の大きな役割に入ってくると解釈しているが、中村委員は何かご意見はあるか。

(中村委員)

- ・今おっしゃった、2月、3月のうちにもアクションを起こすべきだと座長にご提案申し上げた1人が私である。何かやりたいなと思っていて、もっと原子力政策というものをたくさんの人に知っていただくというのが私の最初の発想だったが、その後、この「長計についてご意見を聴く会」のお話も伺い、座長がおっしゃったとおり、市民参加懇談会は、専門家とか原子力産業にかかわっている方以外のいわゆる一般市民の方、しかも原子力施設関係立地はもちろんだが、消費地についても、とにかく一般の市民の方々のご意見を聞く機能を持っており、その役割を果たせるのではないかなと思うので、この素案に基本的に賛成である。
- ・方法論については、この案も結構だと思うし、ほかにご意見があるようでしたら検討させていただきたいと思うが、実施する方向について、私は賛成である。

(吉岡委員)

- ・少し三、四分、時間をいただければありがたい。

(木元座長)

- ・はい、できるだけ手短に。

(吉岡委員)

- ・「長計についてご意見を聴く会」については、その招聘人の多くは、前の長計策定会議のメンバーや、いま専門委員をやっておられる方々であり、あるいは公に発言する場を持っておられる方だというふうにお見受けするので、こういう方を原子力委員会が呼び出すのも結構だと思うが、これとは違う人を市民参加懇談会では呼びたいというのが私の基本的な考え方である。それでだれを外すかというと、原子力委員会の専門委員はお引き取り願う。過去の専門委員もお引き取り願う。経産省関係の委員については、またケース・バイ・ケースで考える余地がある。あるいは、ジャーナリストも、発言の場というのはあると思うのでお引き取り願う。

(木元座長)

- ・それは、いわゆる原子力委員会が行っている「長計についてご意見を聴く会の方」、それとも、「市民参加懇談会」のことか。

(吉岡委員)

- ・「市民参加懇談会」である。原子力委員会で行っている方は、こういう方を呼びしても結構だと思うが、「市民参加懇談会」で行う場合には、そういう人たちは全部外す。それ以外の人たちは多様であり、しかも明瞭な意見、建設的な意見を持っておられる方も相当いると思うので、そういう人の意見をできる限りすくい上げて討議も行うという方式で、やったらどうなのかというのが基本的な考え方である。
- ・また、意見募集を行うのはよいが、アンケートは別に要らないのではないかなと思う。意見募集に応じた人すべてを対象とした公開ヒアリングを行ってはどうかと思う。意見募集でどういうことを聞きたいのかについては、ワーキンググループをつくって、割合包括的な形で例示をつけて示す。それと締め切り日、そういうものを最小限定めたプリントをつくって公開して募集する。それに応じて来た人すべてを、一応、対象者

にすれば良いのではないかと、除外してはまずいのではないかと思います。

- ただ、まとまった話をするのに1人10分は必要だろうし、それについての質疑応答も5分ぐらいは当然必要なので、1人当たり15分だとすると、4時間でやるとすれば10人ぐらいしか呼べないのではないかと。10人呼んで、その後一般討論を行うということで、一般討論については、応募したけれども残念ながら招聘されなかった人にも自由に発言させるという形で、応募者全員をお呼びする。招聘者は絞らざるを得ないけれども、最終的に一般討論の場を確保することによって、だれもが発言の機会を確保するというのが良いのではないかと。その場合、広い会場をもしとれるならば、一般聴衆にもフロアに来ていただく。発言権はなくても良いと思う。狭い部屋だと応募者だけでいっぱいだと思うけれども、一般聴衆にもぜひ広く来ていただけるような場を確保すればよろしいのではないかと。その結果を、ワーキンググループでまとめて、さらに「市民参加懇談会」全体会議での合意を得て、原子力委員会、近藤委員長に報告するという形が良いのではないかと。場合によっては、応募が多い場合には複数回で、テーマを分けてということも考えられるであろうと思う。

(木元座長)

- 資料16-1号にある「意見募集またはアンケート等」というのは、これは意見を募集という形にするか、あるいはこちらが何か設問を用意してお聞きするかということであるが、今の吉岡委員のご意見だと、意見募集の方が良いということだった。その場合に、どういう方法でやるかということだが、ホームページに掲載して、そこで公募していくということもあるだろうし、また、今まで市民参加懇談会に参加して下さった方がいらっしゃるののでそこに案内をお出ししたり、多くの消費者団体からご意見を承ったりしているので、そういう消費者団体にお出しすることを考えると1,000名近くになる。新聞か何かに出して意見公募というのは、時間が不足しており、予算の関係もあるので、いままでの参加者の名簿があるのであれば、そこにお出しした方が確実なのではないかという気もしている。
- それから、ワーキンググループについてであるが、私どもの方は「5名程度のコアメンバーが」と書かせていただいているが、全員が一度に参加できないので、このワーキンググループというか、5名程度の実行委員というか、そういう方に来ていただいて決めていく方法はどうかと考えている。
- それはさておいて、3月までの間にこういう形で長期計画に対する基本的な考え方を募集して討議して報告をまとめるという形は、いかがか。ご異議がなければ、こういう形で実行させていただきたいと思う。

(中村委員)

- 関連質問だが、「長計についてご意見を聴く会」の開催というのはいつごろまで予定されているのか。

(犬塚参事官補佐)

- 5月の下旬ぐらいまでである。毎週1回程度を目標にしている。

(中村委員)

- それをお聞きしたのは、吉岡委員も若干含みを持たせていらっしゃると思うが、一発勝負はなかなか難しいところがあると思う。恐らく、意見募集のフォーマットの検討だけでも時間をとられることになりかねないので、これ1回だけではないというニュ

アンスで検討ができると良いと思う。つまり近藤委員長の方に、伺ったご意見を集約したものをお出しするのに、近くにタイムリミットがあると、網羅的になって、意見の数は多いけれども、集約されていないということも考えられるので、ご意見を聴く会も時間的余裕を持って計画を立てておられるのなら、我々としては、まず年度内に1回やり、年度が変わってもまた1回なり2回なりできるという含みを持って準備するといけるかなと感じたので、今伺った次第である。

(木元座長)

- ・委員長、長計策定はまだまだ先ですね。17年。

(近藤原子力委員長)

- ・大体17年半ばまでには新しい長計をつくりたいと考え、最低限1年の審議が必要なので、6月に検討のキックオフかと思っている。したがって、6月までには、こういう観点でこういう性格の長計をつくるべきという策定の基本方針をまとめたいと思って、今は、そのために資料の収集等の作業をお願いしている段階である。長計そのものについていろいろな意味でご意見を広く聞くという観点から言えば、策定会議を6月から始めた後においても、適宜、例えば大体こんな検討の方向性かと策定会議で意見がまとまった段階で、その方向性についてアンケートや意見募集をすることも考えられる。いずれにしても、いろいろな手段で多くの意見を聞く作業を、できる限りやってみないと、これはまだ勝手に思っている段階だが、そう考えているので、これだけとお考えになる必要はないと思う。

(中村委員)

- ・承知した。

(碧海委員)

- ・関連して、この意見募集またはアンケートを実施するのであれば、私も3月下旬までというのは相当厳しいという気がしている。というのは、2月、3月は、何も原子力だけではなくて、ありとあらゆるいろいろな仕事みんな固まって押し寄せてきており、そういう意味で相当忙しい時期だと思う。2回やっても良いということであれば良いと思うが、そうでなければ、この期日に関しては、少し疑問がある。

(木元座長)

- ・期日とは、3月ということについてか。

(碧海委員)

- ・3月末の開催についてである。

(木元座長)

- ・それは、作業の工程が少しきついということか。

(碧海委員)

- ・特に、アンケートを考えると、「長期計画」というのは、必ずしも一般の人たちにそれほど関心を持って今まで見られているわけではないので、せっかくなら少しアンケートのところもよく考えたい。

(木元座長)

- ・現在の議論としては、アンケートはやめようという方向にあり、吉岡委員も意見募集だけにしようというご意見である。

(碧海委員)

- ・アンケートを完全にやめるなら別だが、少しもったいないという気はする。

(中村委員)

- ・長期計画については、一般の認知度というのは、はっきり言ってそんなに高くない。長期計画という名称を出して設問されても、受け取る側が、原子力政策全般について感じていること、期待することを書けば良いのだ、と判断してもらうためには、アンケート形式にしない方が良いと思う。自由記述の意見募集にして、アンケートについては、今、委員長も言われたように、この先の作業の中で、例えばある程度骨組みが固まってきて、こういうものが長計のテーマになるのはどうかと問う場合には、アンケートという方法が良いと思うが、我々が今回始めようとしていることについては、記述しやすいように、いくつかのテーマ、例示の方法という吉岡委員の提案に賛成で、あとは全て自由記述にし、ご意見をホームページなりダイレクトメールなりの返信でもらうというのが良いと思う。アンケートというのはもう少し方向性が出たときに、これを聞きたいという形で提案した方が良いと思う。
- ・こだわるようだが、原子力委員会も新年スタートしたところであり、できればこれは年度内にやりたいと思う。そして、年度が変わっても、4月か5月にそれを踏まえてフォローアップするような形でもう1回ぐらいできると、懇談会としてある程度のまとまった提案を、原子力委員会にお示しできるかなという印象を持っている。

(碧海委員)

- ・なぜ私がそういう意見を言ったかということ、アンケートというものに、割合と認知度を高める意味合いがあるといつも思っているものだから、長期計画については、過去を振り返ってみると、ご意見を聴く会はあったけれども、それほど一般の人を対象に、そういう調査とかアンケートとかが行われた記憶がなかったので、そういう意味で、せっかくならどこかでやられたら良いのではないかと思った。別にすぐにやって、それを受けてこの3月末にやるということには、こだわらない。

(木元座長)

- ・5月になる前に、原子力委員会の市民参加懇談会としてやることがあればやった方がよいという意見に対し、皆さんからご了解をいただいたと思う。その流れの中で、できれば3月いっぱい、1回開催できればありがたいという気がしている。
- ・吉岡委員のご発言があり、意見聴取、意見募集の形にしようという方向ということだった。碧海委員が言われたようなアンケートだと少し時間がかかるから、先回しの方が良いと思っている。この1回限りではなくて、継続することも考えられるので、意見募集の形としては、ホームページだけではなく、先ほど申し上げたように今まで参加してくださった方々に手紙を出し、「長期計画とはこういうものです、これについて皆様方のご意見を伺いたい」という前段を少しご説明し、「長期計画なんて私は知らない」という意見でも良いし、素直にご意見を書いていただきたい。記述スペースは、何百字以内等の方向を考えたいが、1つのご意見だけでなく、「長期計画があった方が良いか、なかった方が良いか」、あったほうが良いとすれば、「中身はどんなものが良いか」とか、そういう切り口をワーキンググループの方で固めてお手紙を出すようにしたい。一種のアンケートに近いご意見募集になるかもしれない。例えばホームページに出して2週間以内で募集できれば、2月いっぱい何とか形をつけることも可能だろう。それで、3月の終わりまでに、市民参加懇談会のフォーマットとか

会場とかを決めていければと思う。会場としては、東京都内でしか手配できないかとは思っている。ご意見をいただきたい。

(近藤原子力委員長)

- ・「3月下旬までに開催か」と資料にあるが、何か重要な理由があるのか。

(中村委員)

- ・最初に言ったのは私である。何でも官庁のやることは4月以降にならないと始まらず、予算執行となると、大体6月とか7月になる。例えば、新年度、4月1日から現実に予算を使った活動というのはできないのかという質問をし、そんなことはないという回答だったが、なかなか4月、5月に立ち上げるというのは難しい。年度内にばたばたとシンポジウムなどを実施する印象も持っており、実施するにしてももう少し計画性を持ってほしいと感ずることがある。そこで、市民参加懇談会はそのばたばたがないよう――実際にやる時にはばたばたになるかもしれないが――しっかりと意思を持った開催を年度内にやり、そして4月以降も福島での開催をなるべく早く立ち上げるというモデルを作れないかということで、3月、あるいは新年度という話が出てきていると思う。

(木元座長)

- ・あまりこだわらないでやった方がよいとは思う。

(近藤原子力委員長)

- ・そう思う。3月下旬というのが我々のお願いで、それ故に大変無理されているということであれば、それは心外だという意味で伺った。事務局から暗黙の「お達し」のようなものもないと思うので、コアメンバーの皆さんがベストと思うプログラムでやっていただけたらと思う。

(木元座長)

- ・そういうことでやらせていただこうと思う。
- ・方向性が出てきているが、他にご意見はないか。

(東嶋委員)

- ・意見募集の方法については、座長が言われた方法で良いと思う。新聞に出すのは広告代が高いと言われたが、載せてくれないかもしれないが、座長を初めとして記者発表のような形にし、今まで市民懇がどういう活動をしてきて、長計ができるので、こういう目的で初めて皆さんのご意見を聴くことになったということアピールして、短い10行の記事でも各紙に出してもらおうようにしたら良いのではないかと思います。

(犬塚参事官補佐)

- ・東嶋委員のご意見を参考に、東京でプレス発表するだけでなく、地方でも県政記者クラブで発表するなどして、より広く伝わるようにしたい。

(木元座長)

- ・松田委員はいかがか。

(松田委員)

- ・もう決まったら「やりましょう」と、すぐ気持ちに乗るタイプなので、賛成である。

(木元座長)

- ・では次に、コアメンバーの中からワーキンググループを作る件について伺いたい。5名程度のメンバーと考えたが、吉岡委員、ワーキンググループと言われたのは5、6

名というイメージで良いか。

(吉岡委員)

- ・希望者が多ければ、もっと多くすることも考えられる。

(中村委員)

- ・人数は多いと足並みがそろうかという問題があるから、このワーキンググループの人数は、少なくても良いと思う。ダイレクトメールをするにしろ、ホームページで募集するにしろ、フォーマットを作らなければいけないと思う。座長が言われたように、まず「あなたは長計をご存じですか」に丸をつけるという、そういう意味でのアンケート、碧海委員が言われたものも幾つか載せながら、それについてご意見を。

(木元座長)

- ・「ご存じでしたか」で、マル・バツとか。

(中村委員)

- ・そういうフォーマットは作れると思う。それをワーキンググループのメンバーで、例えばEメールで共有し、原案を作り、修正を加えていったり意見を入れる形なら、必ずしも物理的に顔を合わせなくても何かできそうに思う。顔をあわせるとしても、最初のキックオフだけ3人か5人いていただければ良いと思う。

(木元座長)

- ・そうすると、少なくとも3人、多くて5人。では、手を挙げていただけるか。

(中村委員)

- ・座長一任で良いと思う。

(木元座長)

- ・吉岡委員が手を挙げてくださった。

(中村委員)

- ・吉岡委員は、当然やったださるだろう。

(木元座長)

- ・では、とりあえず、私と吉岡委員で決めるか。

(碧海委員)

- ・吉岡委員と、中村委員が良いと思う。

(松田委員)

- ・若い方で、東嶋委員はいかがか。

(木元座長)

- ・今日のご欠席だが、岡本委員が、一般から意見募集という形でアンケートはどうかと最初に言われた方である。前々回のコアメンバー会議だった。岡本委員は、リスクコミュニケーションの専門家でもあり、推薦したい。

(中村委員)

- ・作ってしまって、見ていただいても良いと思う。ゼロからよりも、その3人なら3人、座長を入れて4人なら4人でも、そういうグループでとりあえずたたき台を作って、それに皆さんが、こんな項目を加えろとか、これは要らないとか、このフォーマットは良くないといった意見を寄せてもらえればありがたい。

(木元座長)

- ・そうすると、ワーキンググループは、吉岡委員、中村委員、東嶋委員、それから私が

入り、岡本委員ということによろしいか。

- ・では、お引き受けさせていただく。今、名前を挙げさせていただいた、ここにいらっしゃる3人の方々、よろしくお願いする。後で打ち合わせをする。
- ・コアメンバーの中からのワーキンググループを決めさせていただいた。そして、中村委員ご提案のように素案を作り、すぐメール等でお送りする。すぐ作業にかかるようにしたい。
- ・先ほど私が申し上げた、コアメンバー会議に参加していただいた方の名簿のあて先に送付することには、ご異論はないか。では、基本的にはその形でやらせていただいて、ホームページに出してお答えを待つとか、記者クラブに投げるとか、消費者団体に投げるとか、そういうことも加えてさせていただき、後ほどご報告させていただく。
- ・次に開催場所について、資料16-1の2.2)で市民参加懇談会の会場を東京としたのは、来ていただくのに便利ではないかと考えたためである。
- ・会場の配置については、例えば以前に円卓会議を小沢委員はやっていらして覚えていらっしゃると思うけれども、あのときはフラットなフロアだったか。

(小沢委員)

- ・そうだった。

(木元座長)

- ・輪になってご意見を伺うとなると、過去の市民参加懇談会で採用してきた階段式とかステージなどは、ない方が良くとか、いろいろ意見があると思うが、どうか。

(小川委員)

- ・今回、ご意見の発表者はご希望された方たちだけということか。

(木元座長)

- ・ご意見をいただいて、その中から何人か選ばせていただくことになると思う。

(小川委員)

- ・ご意見をいただいて、ディスカッションもその方々だけでやるということか。

(木元座長)

- ・いや、コアメンバーは一緒にいて、ご意見を伺う立場で加わることで良いと思う。

(小川委員)

- ・聴講される方は、聞いているというのが基本ということになるか。

(木元座長)

- ・いや、そこもこれからご討議いただきたい。

(小川委員)

- ・意見を言えるということか。

(木元座長)

- ・先ほど吉岡委員が言われたように、招聘者に選ばれなかった方々も来ていただいて、第1部、第2部と分けるとすれば、第2部の方でご発言いただくのが良いと思う。第1部から絡むのは難しいと思う。まず形式を考えないといけない。

(中村委員)

- ・形式はステージ方式よりも、フラットなところで円卓でも良いのではないか。

(木元座長)

- ・円卓式。円卓会議のときは、会場からのご意見はいただかなかったが、今回の場合は

いただく形をとる。

(中村委員)

- ・ 去年の暮れに、NUMO（原子力発電環境整備機構）が国際会議をやったが、そのときに日本の委員と外国の委員がやはり円卓になって討議をして、それを皆さんに聞いていただいて、後半は一般の参加者の方からご意見、ご質問を受けるという形をとった。雰囲気はなかなかよく作れたので、そういう形式が良いのではないかと思う。ただ聞いているだけではなくて、やはり発言できるように。

(木元座長)

- ・ 会場はホテルのようなところか。

(中村委員)

- ・ そのNUMOの国際会議は、田町の建築会館が会場だった。そこは、同時通訳のブースもあって、スペースとしてはホテルの宴会場のようにフラットなスペースだった。必要ならスクリーンも用意できるし、低い演台ももちろん積むことはできる。ホテルでなくても、そういう会場もある。

(木元座長)

- ・ なるべく足の便が良いところが良いと思うが、たしか円卓会議のときは、池袋の会場を使ったことが何回かあった。ホテルを使ったのが多かった。
- ・ では、東京で、フラットな会場を選ばせていただく。
- ・ 先ほどの吉岡委員のご提案だと、招聘者は10名ぐらい。

(吉岡委員)

- ・ 招聘者は10名程度が良いと思う。

(木元座長)

- ・ コアメンバーも大体10名ぐらい参加いただけるのではないかと思いますので、今日のよ
- うな感じになるかもしれない。
- ・ 周りに一般席で参加していただく方は、何名ぐらいが良いか。

(吉岡委員)

- ・ 応募者が何名ぐらいいるかによるのではないか。100人いたら、100人は呼ばなければいけない。

(木元座長)

- ・ ご意見をいただく方とは別に、意見を言わなくてもただ参加したい、見たいという方もいらっしゃると思う。その方のための募集をしなければならない。そうすると、やはり制限はあるだろうと思う。

(吉岡委員)

- ・ 会場を、応募者と一般参加者とである程度分けて、応募者は発言権があるけれども、一般参加者はできる限り聞くだけにしてくださいということにして、一般参加者もできるだけ入れた方が、宣伝効果が高まると思う。応募者があまり大量に来た場合には、一般の枠が少なくなるかと思うが、300名ぐらいとおけば十分だと思う。

(近藤原子力委員長)

- ・ 今、応募者とおっしゃったが、応募というのはご意見を提出された方のことをおっしゃっているという理解で申し上げますと、それが1000人いらして、その方に来ていただくという立場をとると、1人1万円お支払いしたら1000万円かかる。だから、

来ていただくという意味は、招聘者はこちらが旅費を持つという意味で言っていると思うが、意見を出した方に来ていただくというのは、その意見を出したことによって、その席を確保する権利は生ずるが、費用をこちらが持つという意味ではないということ、ここで確認させていただければと思う。

(中村委員)

- ・ 近藤先生ともおつき合いは長いが、そんなに細部まで気にされる方とは思わなかった。
- ・ 話が前後しているが、その募集のフォーマットを作るときに、私が考えていたのは、まずそのご意見を書いてくださいというお願いとともに、発表の場があり、その発表者になりますかという設問に丸印で回答してもらう。それから、それが多数の場合には選ばせていただくが、何月何日、東京に出席できますかという設問にも丸をつけてもらうというような方式を考えているので、そこで数はコントロールできると思う。多数の場合は、残念ながらという制限は当然ある。ただ、できれば加えて一般の方にも、例えばホームページを見て開催は知っているが、意見は言わずとも他の方の意見を聞きたいだけだという方も当然いらっしゃるの、その方たちには、定数になってしまったら先着順にさせていただくということを示しておけば良いと思う。
- ・ 基本はそういうことで多分、吉岡委員も同じ考えだと思う。吉岡委員の言われた案のうち、ご意見を寄せられた方で発言者ではない方に優先的に発言の機会を与えるというのは良いが、一般の方についても同等にしておいた方が良く思う。一般の方は少しご意見を控えてくださいというのは難しいので、10人予定している発表者以外の方も、会場で発言の機会がありますというぐらゐの案内にして、一般の方に告知するときにも、懇談会の後半で会場からもご意見を求めることがありますというところは、公平にしておいたら良いのではないかな。

(木元座長)

- ・ 円卓会議というものが原子力委員会に設立される前に、ご意見を聴く会というのがあった。私は、5人の実行メンバーの一人だったが、そのときは公募をして、例えば核燃料サイクルについてご意見を下さい、軽水炉の発電についてご意見を下さい、原子力をふやした方が良いか減らした方が良いかとか、7問ぐらゐに対するご意見を募集して、それを箱に分けて入れて、厳正なる抽選をして招聘者を決めたという経緯がある。そのときには、「ご意見をいただいた方の中からこちらで抽せんをさせていただいて、当日ご意見を発表していただくことがあるかもしれませんが、よろしいでしょうか」ということで丸をしていただくという方法をとったと記憶している。そのように、ご意見を募集するときの「お願い」のフォーマットでカバーできることではないかなと思う。一般の方と分けて考えることについては、もっと詰めた段階で、結論をきちんとさせていただこうと思う。

(碧海委員)

- ・ 会場についてだが、フラットということが、一般の人が参加する場合にどうなのかというのを、少し危惧している。

(中村委員)

- ・ オーディエンスの格好にした方がということか。

(木元座長)

- ・ すり鉢型の会場ということ。

(碧海委員)

- ・ そうである。例えば、世田谷のパブリックシアターのようなタイプが良いと思う。あそこは、舞台自体が相当自由に設定できるが、観客席は見下ろす形の階段状。借用料もそんなに高くないと思う。

(木元座長)

- ・ 円形の会場だったか。

(碧海委員)

- ・ いや、あそこは円形にでもどうにでもできると思う。とても自由に変えられると思う。

(木元座長)

- ・ すり鉢型にもなるか。

(碧海委員)

- ・ すり鉢型である。座るところがすり鉢型。舞台そのものを相当前にも出せるし、引っ込めることもできる。だから、観客席が円卓を囲んだような形ができる。そういうタイプのホールは結構あるが、世田谷のパブリックシアターは、公営だから安いのではないか。何かフラットというのは、少し欲求不満になる。私も、以前に何遍かそういうものに出たことがあるが。

(木元座長)

- ・ 円卓会議で工夫したのは、フラットでありながら、パネリストというか、話す方は台で何センチか高くした。少し上がっていた。

(碧海委員)

- ・ 何か少しそういう工夫が必要だろう。

(木元座長)

- ・ ライトを当てて見えたとか、他は忘れてしまったが、何か工夫はしたような気がする。
- ・ 今のご意見を踏まえて、会場を検討する。

(井上委員)

- ・ 3月ごろまでに、1回何とかしたいというと、時間はそんなにないと思う。この市民参加懇談会が、さらに一般の方たちの意見を長計に関して聞くというスタンスは、いわゆるサイレントマジョリティ的な、聞けない意見を聞くということが一番の目的だろうと思う。こういう募集をして集まってきた意見を、その他大勢の1人の意見として言いたい人は、その場で言いたくて言いたくて書いて応募して来られるわけで、招聘者として呼ばれると、腹八分ならともかく、言い足りない、聞き足りない、と少し欲求不満を残して、意見を私は言ったけれども、あれは何だったのか、聞いてもらえたのかという思いが結構あると思う。一般の方が呼ばれて、言いたいと思って行っても、「その他大勢の1人」的に受け取られると結構欲求不満だと思うので、もし何回か開催するのであれば、まずは、3月までそんなに時間がないので、少しクローズドの状況で、広く一般何百人ではなくて、招聘者にきちんと意見を聞くのはどうか。それを踏まえて、第2回は少し輪を広げて、例えば200人規模ぐらいとしてメールとかホームページを使って意見の一般公募をやってみる。さらにもう一つ外を広げて、本当のフリーディスカッションをとというのは、時期も考えて2~3回やるということであれば、1回目はこういう目的で、2回目はこういう目的でというふうに対象者をきちんと設定して、意見の言いたい人には満足感を与えるというか、満足を持って言

いたいことは言ってきたんだ、それが長計という、ダイレクトに政策に結びつくものに自分は関わったのだということにしてあげることが、この市民参加懇談会ができる、一般意見を聴く1つの目的かと思うので、一遍に1回でやってしまおうと思わないで、少し分けたらどうか。

(木元座長)

- ・なるほど。そのフォーマット、やり方としては、刈羽開催のときのような規模。

(井上委員)

- ・まずは、そのくらいからやってみても良いかと思う。

(木元座長)

- ・あのときは結構会場の皆さんが声を出した。

(井上委員)

- ・もしくは、第1回は、今日のこのコアメンバー会議のような状況でも良いかと思う。東京開催のときような形で。

(木元座長)

- ・主婦会館で市民参加懇談会を開催のときの、あの規模。

(井上委員)

- ・まず、しっかり意見を聞くというのはどうだろうか。

(中村委員)

- ・あれでも150人か、それぐらいは来ていた。

(井上委員)

- ・後ろにいらっしゃった。

(小川委員)

- ・意見の募集は、あと一ヶ月ぐらいでは100も来ないと思う。

(木元座長)

- ・やってみなければ分からないと思う。

(小川委員)

- ・おっしゃるとおりだが、もし意見を出した人を優先にクローズドになれば、井上委員がおっしゃられているような状況にはなるのではないかと思うし、それはそれで意味があると思う。意見募集の対象が、過去の市民参加懇談会に参加された1000人ということだとすると、1割の方が書いてくれるかどうかだと予想されるので、そうすると100くらいだと思う。

(中村委員)

- ・ホームページにも載せるから、全国から結構来るだろう。

(小川委員)

- ・意見は良いが、発表者は予算があるとしても、聴講者は私費で来ることになる。ホームページで出した遠隔地の人は、現実問題として来れないと思う。

(木元座長)

- ・井上委員が言われた方向で考えると、3回ぐらい開催するとして、最初はその意見を皆さんが耳をそばだてて聞けるぐらいの範囲で100人以内。円卓を囲む人以外が100名以内の規模でまず開催してみる。そのときに来られる人、来られない人という問題は、敦賀開催のときなどは随分遠くからいろいろな方が来られたから、あまり深

くこちらが思い込みで考えないでいた方が良いかもしれない。

- ・ 100名以内で最初の段階はやってみようという案についてはどうか。

(中村委員)

- ・ 会場は100席限定で、先着順か抽選にするか。

(木元座長)

- ・ 次に、ご意見を募集して、こういう方にご発言いただくということを大体決める。会場も決めて、100名以内とし、そして日時も決まった段階で今度は改めてお知らせというのを出す。そのときに100名はどういう順序で決めていくか。今までは申し込み順で考えていた。

(吉岡委員)

- ・ 私がペーパーを出した基本的な考え方というのは、招聘者にじっくりしゃべっていただき、意見を寄せてくださった方からも時間があれば、ほかのお話をいただくということで、発言者としてはそれほど多数は予定していないものであり、一般の人にも公開はするが、それはおまけぐらいのつもりであった。第2部を長々ととってとか、挙手で発言させるとか、そういうことは余り私の案では想定してなかった。その意味では小川委員の案とかともイメージは近いと思う。

(木元座長)

- ・ もう少し詳しく見ると、今までの市民参加懇談会は第1部、第2部に分けて、第1部で問題提起して、選ばれた人に発言していただき、第2部の方はフリートークの形をとっていた。今回はそうでなく、休憩もとらないで4時間通して同じ人にずっと話してもらうということか。

(吉岡委員)

- ・ 休憩は取って良いと思う。フリーに挙手して発言ということではなくて、ある程度意見はフロアで出していただいても良いが、それはこちらで司会がコントロールするという形はいかがか。

(木元座長)

- ・ 招聘者としてお招きする方は10人ぐらいで、かなり時間をかけてお互いに議論し合った上で、実はここに招聘した方以外でご意見をお出しになった方がかなりいらっしゃるという振りでどなたか、と進めるということか。

(吉岡委員)

- ・ そのときには既に意見は出ているわけだから、その人たちから。関連するものを司会が指名をする。あるいは特にそれに関連があれば意見を受け付けますという形でも良いと思う。自由に勝手にしゃべられるというのは結局不満が残ると思う。

(木元座長)

- ・ 例えば長計の話をする、長計是非論みたいなことで意見をお寄せになった方がいらっしゃる、とすれば、お名前をこちらで把握しておいて、いらっしゃることを確認した上で司会がお名指しするというような方法もあるということ。

(碧海委員)

- ・ 確認だが、今まで市民参加懇談会としてやってきたものは、相当素朴な意見から、専門的な意見から、いろいろな立場の意見があって、どんなものが出てきても構わないという考え方だった。今回は事前に意見を求めて、ある程度選択するということだが、

長期計画に関するご意見だし、発表者の意見内容がある程度変化に富んでいるとか、そういうことで選ぶことになるのか。その場合、コアメンバーが参加するということだが、コアメンバーの役割はどういうことで考えているのか、その辺りを確認したい。

(木元座長)

- ・いつも申し上げていることだが、我々は「公に聴く」のではなくて「広く聴く」という「広聴」をモットーとしている。
- ・もう一つは、相互に理解し合わなくてはいけない。こちらから何か原子力行政がこうだから理解しろというのではなくて、「あなたは何を考えていますか、ああ、そういうことですか。私はこうなんだけれども、どうでしょう」と、相互に理解していくという使命を私たちは背負っているわけで、その意味からすれば、まず意見を伺って、その方がおっしゃっていることがこちら側が理解できない場合とか、どうしてそういうお考えになるのか、例えば長計が要らないといった場合になぜ要らないのか、どうしてそういうことなのか、それはどうやったら良いのかと、追っかけ質問というのか、もっと深く知りたい、そういう交流はあると思う。

(碧海委員)

- ・ということは、市民参加懇談会のコアメンバーが自分の意見を述べるのではなくて、あくまでも相手の意見を深めるために質問したりするということ。

(中村委員)

- ・そこは原子力委員会の「長計についてご意見を聴く会」の趣旨と歩調がそろっていた方が良いと思う。なぜ質疑があるかというのは、より理解を深めるために公開の場で質疑をするということと聞いている。それは我々も同じ姿勢が良いと思う。コアメンバーと議論するために呼んでいるのではないということだけ確認していれば、より深く正しく理解するために質疑応答があるという姿勢ではないか。議論の場、ディスカッションの場ではないということ。

(木元座長)

- ・議論になってしまうこともあるかもしれないが。

(中村委員)

- ・それは司会の役割だろう。

(木元座長)

- ・基本的にそういう姿勢で良いと思う。

(中村委員)

- ・基本的に井上委員が言われたねらいで何かまとまっていけるのではないかと思う。井上委員が提案された規模と趣旨。実際の参加者についてどうするかというのは、できれば一任という形で、募集の形式と同じように検討するとした方が良いかと思う。

(木元座長)

- ・そう思う。また違ったご意見が後から出るかもしれないので、そのときお諮りする。
- ・少し先へ進ませていただくと、3月の下旬までに開催するとして、場所を事務局側でチェックする。碧海委員のご意見もあったし、すり鉢型とか、そういう件を含めて検討したい。
- ・開催時間は、土曜日の午後、または平日の夕方と資料16-1に書いたが、どうか。ウィークデーという選択肢もあるが、ウィークデーなら昼間じゃなくて夕方という意

見もある。

(中村委員)

- ・発表者が主役であり、その方たちのご都合を考えたら、一般の方だと平日の昼というのは無理だろう。

(木元座長)

- ・土曜の午後、または平日の夕方、金曜日の夕方というところか。

(東嶋委員)

- ・地方からの方がどのぐらいいらっしゃるのかも問題だろう。地方から来られるんだったら平日の夕方に東京では間に合わない。

(木元座長)

- ・そうすると、土曜日の午後がベターか。

(中村委員)

- ・そうなるだろう。

(木元座長)

- ・基本的に土曜日の午後で当たってみて、あいているところを探してみる。
- ・決まった段階で皆様にまたお諮りして、いろいろご提案いただきたい。ぜひご参画いただけるようにスケジュールを調整していただければありがたいと思う。
- ・資料16-1の(3)ですが、原子力政策の策定プロセスへの反映について、コアメンバーから報告してはどうかというのは、これは報告した方が良いと思う。それは1回目のときにやるのか、2回、3回と仮に続いたとすれば3回やってから報告するのか、それはまたお諮りしなければいけないと思うが、基本的には原子力委員会定例会議の場で報告はさせていただこうと思っているので、よろしく願いたい。
- ・長計に関わる市民参加懇談会の役割というか、仕事としてやらせていただくということで、吉岡委員、中村委員、東嶋委員、それから岡本委員もこれからお願いし、私も参画してワーキンググループとさせていただくので、よろしくお願いします。

(2) 市民参加懇談会の福島開催について

○事務局より、資料市懇第16-2号について説明した。

(木元座長)

- ・先日大テーマということで「原子力とともに暮らす」と、小沢委員から提案があったと思う。

(小沢委員)

- ・覚えがないが。

(木元座長)

- ・何人かから出て、まとめたのがこういうテーマだった。

(中村委員)

- ・近いことはお互いに言っていた。

(小沢委員)

- ・もう忘れてしまった。

(木元座長)

- ・子供の教育のことも東嶋委員の方から出たと思うが、「ともに暮らす」という大タイ

トルで良いかどうか。

(小沢委員)

- ・「ともに暮らす」というか、「原子力のある町で暮らす」とかという意味だったと思う。

(中村委員)

- ・我々が聴きたいのは、「暮らす」じゃなくて「暮らして」ではないか。

(木元座長)

- ・これでいくか、ほかに何かこれに加えるとか、少し修正するとか、そういうご意見はありますか。

(中村委員)

- ・構成で考えると、問題提起が少し短い時間だけれどもあって、メインは参加していただいた方からご意見を伺うということなので、広く意見を聴くことだが、内容も広く何でもオーケーと受けるか、我々の主催なのだから、これは前回も大分議論をしたところだが、どこかと共催するわけではなく、我々市民参加懇談会が主催するならば、我々がこの時点で福島に聴きたいこと、浜通りで聞きたいことを明確にして、それについてのご意見やご感想、ご提言をお聞かせくださいという呼びかけになると思うので、このテーマの出し方も、そこをある程度絞らないといけないと思う。
- ・例えば、「知りたい情報が届いていますか」というのは、一般的には我々が考えた中で良い設問だが、それを今回立地地域の浜通りでやったときに、この例示が出ているように、これからの電力自由化と原子力についてというようなことでも良いのかという感じはして、それが市民参加懇談会が今聞きたいことかと言われると、少し疑問なので、私の考えだが、原子力政策決定のプロセスとか、エネルギー政策における原子力の位置づけ、つまりは立地の位置づけ、電源立地、あるいは原子力関連施設立地の将来について等、浜通りまで行くならそういうことに集約されるのではないかと思う。そうすると、それを聞き出せるようなテーマを出した方が良いのではないか。

(木元座長)

- ・そもそも市民参加懇談会を立ち上げたときには、私のイメージでは共催を主に考えていた。前回、それはやめようということになったが、共催するというのは、今までいろいろなところの話を聞いてみると、自分たちが主体になってやる場合、あるいは国なり事業者が主体になってやる場合がある。だけれども、ともに考えて、ともにこういうテーマにして、そしてお互いが歩み寄りながら何か見出していくという方向のものがないというご提示が一つあった。
- ・それを市民参加懇談会が吸収できれば良いと思って、刈羽から始めている。共催はあそこで一回やったが大変な苦勞だった。そうして次の展開ということになっているわけだが、今、中村委員がおっしゃったことはこちら側が主体だから、「主催 原子力委員会市民参加懇談会」とすると、こちら側が地元のご意見を聞きたいと、聞きたいことはまずこれですよということを提示して、そして聞くということになってしまうわけである。その場合、小テーマというのは皆様方からご意見をいただき、どんなのがあるかということでここに例示しているわけだが、大テーマとして「原子力とともに生きて」とする場合、そこで生活していて、おっしゃりたいことは何ですかというのがまずある。そうすると、「生産地のことを消費地は何も知らない」という意見が

出てくるかもしれない。そういうご意見をまず出してもらわなければいけないということが多分あるだろう。こちらが伺いたいのは、原子力とともに暮らしてきて何が問題ですかとか、何がおっしゃりたいですかというようなことが含まれる大テーマであってほしい。そうすると今、中村委員がおっしゃったような細かいいろいろな具体的なことが多分その中のご意見の中に広く出てくるのではないかと思う。そこで大テーマというか、掲げるタイトルは重要ではないかと思う。

(吉岡委員)

- ・この、原子力とともに「暮らす」というのと「暮らして」というのは少しニュアンスが違って、「暮らして」だと何か過去形の雰囲気が強くなって、「暮らす」というと未来がかなり入ってくるように、思う。そういう違いはあるとは思いますが、私はやはり過去を踏まえて未来を語るのがよい。未来は不確実であって、実は物すごく不安である。
- ・福島県がプルサーマルの受け入れを凍結したのは、電力会社が電源開発計画を凍結したことに対する県知事の意向である。以後エネルギー政策検討会というものを開催することで今に至っているわけだが、その中間取りまとめを見てみると、意思決定プロセスとか、電力自由化の中での原子力発電の位置づけについてとか、政府の原子力政策へのさまざまな疑問が示されている。これから先がどうなるのかという、全体として不安を感じているような基調になっているような気がする。個々のアイテムを見てもそのような感じが漂っている。未来をどう考えるのかということ。

(木元座長)

- ・それは大テーマとするとどういうものが良いのか。

(吉岡委員)

- ・原案でも良いと思う。

(木元座長)

- ・「暮らす」で良いということか。

(吉岡委員)

- ・そう思う。「暮らして」より「暮らす」の方が良いと思う。

(中村委員)

- ・「す」と「して」はどう受け取られるかが問題なだけである。

(小川委員)

- ・代案として良いものがなくて申し訳ないが、共催した場合ならこの原案の題でも良いと思うが、我々が主催であることを客観的に見ると、何か上から構えているようなイメージがすると思う。外からの人にこういうテーマを言われると、押しつけられて「これであなたたち話しなさい」という、何か失礼なような感じがする。もう少し客観的で感情が入り込まないような、そういう題にした方が良いのではないかという気がする。「原子力とともに暮らす」は、何か生々しい気がしてしまう。

(木元座長)

- ・実際に暮らしている方々からの提示なら良いが、我々が言うのは少しおこがましいのではないかということか。

(小川委員)

- ・そうである。少しおこがましい題というような気がするので、あまり感情が入らない

ような題が良いと思う。

(木元座長)

- ・新井委員から、何かご意見をいただけるか。

(新井委員)

- ・難しい。

(木元座長)

- ・新聞記者だったらどういうタイトルをつけるか。見出しのつけ方。

(新井委員)

- ・ずっと先ほどから話を聞いていて、非常に難しいものだなと思っていた。形式の話まで入ってしまうと私には到底分からないが、先ほど言われたように、原子力とともに「暮らす」、「暮らして」と、これはどちらにしても、確かに上から見たような話になってしまうかなとは思いますが、聞いてみたい話としてはこういうところを聞いてみたいということなんだと思う。これはむしろ文字どおり、しかし逆に相手の人に媚びるようなタイトルにしてしまっても変なのだろう。そこのところが少し難しい。あまり深く考えてしまうとタイトルがつかなくなってしまう。

(近藤原子力委員長)

- ・前回の議事録を読むと、たくさんこのことについて議論されておられ、ご苦労がしのばれるが、小沢委員が「今何を考えますか」、「どう考えますか」、「賛成か反対か」という言葉を挙げておられるようで、これが一番ニュートラルというか、ストレートな質問で、これも良いかと思う。「暮らして」などと言っても、そこに行ったら大体の人は暮らしているに違いないのだから、そんなことは全然言う必要はなくて、「どう考えますか」と直球を投げて良いのではないかという感じもする。

(木元座長)

- ・こちら側から投げかけていることにはなる。

(近藤原子力委員長)

- ・コアメンバーを差し置いて、こんな発言はあまりよくないかもしれないが。

(木元座長)

- ・なかなかそれも良いと思う。その前に「原子力」という言葉をつけて、「原子力・」でもカンマでも良い。「原子力、どう考えますか」と言ったらかなりストレートである。その中に一緒に暮らすこと、一緒に暮らさないこと、どう生かすかということ、いろいろ入ってくるとは思う。

(近藤原子力委員長)

- ・お話しされる方がその立場で、あるいはもっと違う立場か、オピニオンリーダーとして何か言うのかもしれない、生活者として言うのかもしれない。それは発言する人にお任せするということが良いというのが小沢委員の提案の趣旨かと勝手に理解をした。

(木元座長)

- ・「今」という言葉は入れても良いか。「今どう考えますか」か、ただ「どう考えますか」にするか。

(近藤原子力委員長)

- ・前回の議事録には、「今何を考えますか」とか、「どう考えますか」と書いてある。「今」と言ったら電力自由化について考える人や、プルサーマルを考える人もいるだ

ろう。それは発言者にお任せして良いということであれば、「今何をどう考えますか」、「何を考えていますか」というのは直球で非常に良いと思う。

(木元座長)

- ・直球でいくか、カーブでいくか。

(小沢委員)

- ・立地だとか計画だとか、割と限定主義にしたくて、原子力のあるなしにかかわるような議論はしたくないようなところがある。でも、それが隔靴搔痒でいつも技術論だけで、日程の調整とかで終わっているから隔靴搔痒。もう何か決まったことのようにみんなで言っているが、住んでいる人には、決まってない人もいるわけだから、決まってない人の意見も聞くようでないと、整理して政策についてとか、いろいろ言える人だけの話を聞いているとやっぱりだめなのではないか。

(松田委員)

- ・直球の方が私も良いと思っていて、「原子力をどう考えますか」ではなく、「原子力発電をどう考えますか」と聞くのが分かりやすいと思う。代案として、私は「21世紀の原子力政策をともに考える」というのも考えてみた。くどいかと思うが、だから話題が広がる。市民からすると、何でもいわゆるプロの担当者じゃなくて、話しやすいというか、市民がこうだ、こうだって言えるかなと思う。もっと平たく言うと、「原子力発電とともに暮らす」。ともに暮らして困ったこと、よかったこと、得したこと、損したこと、のようなところが出てくると良い。

(木元座長)

- ・そのテーマは敦賀開催のときの「プラスとマイナス」という発想に近い。敦賀開催のときはサブタイトルにつけた。

(松田委員)

- ・直球過ぎるので、あまりに下品と思う。

(木元座長)

- ・廃炉の問題とか、次世代の原子炉とか、そういうところまで話が及ぶかもしれない。

(松田委員)

- ・広がり過ぎるか。

(木元座長)

- ・「今」の方が発言しやすいのではないか。「今」を考えたときに、今こうやって私たちがやっているけれども、将来どうなるか分からない、というのも「今」、考えること。将来の不安とか、あるいは将来への期待とかもあるかもしれない。その中に21世紀全体を見据える視点が入るかどうか。
- ・幾つか出たが、富岡町でやらせていただくとして、福島原子力発電があるところ、ということ念頭に置いても、「今どう考えてますか」ということの方がストレートで受け取りやすいかもしれない。

(小川委員)

- ・少し頭に浮かんだ。「今あなたにとって原子力とは」はいかがか。

(松田委員)

- ・原子力じゃなくて、原子力発電ではないか。

(小川委員)

- ・「今、あなたにとって原子力発電とは。」

(木元座長)

- ・「発電」はいかがなものか。

(碧海委員)

- ・小川委員と今同じようなことを考えていた。ただ私は「今」も、それから「発電」もない方が良いと思う。「原子力」という言葉は人によっていろいろなとらえ方があるので、原子力発電ととらえる人もいるが、違ったとらえ方をする人もいっぱいいるから。市民参加懇談会は相当広く意見を求める場だから、どんな意見が出てきても良いと私は思う。

(井上委員)

- ・私も門外漢なので、時々混乱する。それは、時として原子力政策、つまり原子力のことを言っている場合、それからエネルギー政策のことを言っている場合、時として原子力発電ということを言っている。それが多分専門の皆さんはしっかりと区別してお話しなさると思うが、発電の問題か、エネルギーの問題か、広く資源の問題か、さらに、原子力そのもののもっと広い問題か、福島に住んでいる人にとってどこが一番今問題になっているか、もしくはどこを聞きたいか、どこに言いたいのかということで少し絞ったら良いのではないかという気がする。発電なのか、エネルギー政策なのか、原子力政策なのかという気はします。

(木元座長)

- ・そうすると、原子力だけの方が良い、それはあとで細かく絞れば良いということ、大タイトルは大きいテーマとして掲げる。

(井上委員)

- ・地元の方にとっては、原子力発電所とともに暮らしているのであって、原子力と暮らしているだけでは、広いんでしょうけれども違うのではないかと思います。だから、地元の方は今の段階で、例えば「今どう考えますか」とか、「言いたいことは」といったときに、エネルギー政策なのか、原子力政策なのか、原子力発電所なのかというあたりぐらひは聞く側としてはある程度柱を立てておく方が、聞く意味というか、聞きたいことが聞けるという気がするが、どうだろう。

(木元座長)

- ・例えば今東京で開催する場合には、原子力発電か、政策かという分け方は必要かもしれないが、富岡という立地地域の現地に行った場合には、原子力といえばほとんど発電所しか考えないだろう。一緒に生きているわけだから。したがって、富岡町で開催する場合には「原子力」でも良いのではないか。それでも政策のことも入ってくるだろうし、「今」という言葉を入れた場合には、今福島で悩んでいるところがある。原子力発電所をこのまま存在させるのか、させないのか。プルサーマルを自分たちで入れるのか、入れないのか等、いろいろなことがある。入れたい人もいれば、この際やめた方が良いという人もいる。そんなことが見えてくれば良いという気がする。

(小沢委員)

- ・そうすると、一番聞きたいことをストレートに言えば、「原子力発電所は迷惑施設ですか」ということだろう。

(木元座長)

- ・ そう思う人もいるかもしれない。

(小沢委員)

- ・ 実際に停まっているんだから、迷惑で困ったものだと言って停めている人がいるということだろう。反対に動かしたい人もいるわけだろう。

(木元座長)

- ・ 雇用の面とか、いろいろ出てくる。

(小沢委員)

- ・ 実際は停まっているではないか、とか、本当は外側からあまり言っても、何で停めているのかとか、早く動かして欲しいという意見もあるわけだから。原子力委員会としてはどうなのか。

(木元座長)

- ・ 原子力委員会としてというよりも、電力会社として、安全性について、住民の方の合意がなければそれは無理だと思う。あまり色のついた意見は出したくはないし、出すべきではないと思うが、出るかもしれない。しかし、できるだけ地元のいろいろな意見がそこで出てくればありがたいと思う。生産地のジレンマみたいなものが出てくれば、それに対して消費者側はどう考えたら良いのかという視点も見えてくるだろう。

(碧海委員)

- ・ どんなに地元であっても、毎日生活している人間にとって本当にそんなに原子力にしても、原子力発電所の問題にしても、そんなに関心事なんだろうかというのが、どうしても疑問に思う。ここで議論されているようなことというのは、やっぱり関係者の議論だという気がするので、私はなるべく入り口は広くしておいた方が良く、どんなことでも言えるようにしておいた方が良くと思う。先ほどの意見との絡みで言うと、例えば原子力発電と原子力発電「所」とで、テーマとして聞いたときに、かなり違う。だから、それは相当検討した方が良くと思う。

(木元座長)

- ・ 碧海委員の場合は「原子力」でとめた方が良いか、それとも「発電」だけが良く思うか。

(碧海委員)

- ・ 私はいつでもそうだが、なるべく漠然としたテーマが良いと思っている。

(木元座長)

- ・ 「原子力」で良いということか。

(碧海委員)

- ・ 「あなたにとっての原子力とは」とか。なるべく広くして欲しい。

(近藤原子力委員長)

- ・ 言葉の組み合わせを考えるとときに、無限とは言わないけれども、たくさんできる。発散してこの議論を続けるか、あと10分でまとめるかということを決めて、候補を挙げていくと良いかもしれない。もうそろそろ決める時間が迫っていると思う。

(木元座長)

- ・ これは福島開催なので、開催地が決まっており、その後でテーマがあって、時期は4月か5月になると思う。それまで少し時間があるので、本日は候補を思い切り出していただいて、あとは事務局で考えて、またまとめたものをお知らせしたいと思う。

(町原子力委員)

- ・意見ではないが、原子力委員として非常に関心があるのは、地元の本当に原子力発電所の近くに住んでいる人が、原子力発電所があることによるメリット、デメリットについて、実際にどう考えているかということが一番知りたい。そういうことについての生の声を。

(木元座長)

- ・先ほどのような、例えば原子力をどう考えとか、あなたにとっての原子力といった場合には、こちら側の質問の仕方によって、それは多分出てくると思う。基本的にはそういう考えでいこうと思っている。

(中村委員)

- ・ブレンストーミングばかり続ける時間がないのは確かなので、今のうちに思いつくことを言うておくが、私は極めてストレートに聞きたいことは決まっているので、例えば「原子力と浜通り」で良いと思っている。「今何を考えていますか、聞かせてください」という、そのニュアンスがあれば良い。
- ・浜通りの人は立地地域として、特別な感情を持っておられると思う。我々が富岡に行くということは、浜通りに行くのだから、まさに原子力発電所の立地地域なのだから、「原子力と浜通り」でも良いと思う。

(木元座長)

- ・それはおもしろいかもしれない。

(中村委員)

- ・それから、委員長も小沢委員も言われたように直球勝負だと思う。「今」という言葉は欲しい。「今」というのは過去があって未来があるから「今」なので。

(木元座長)

- ・「原子力と浜通り」に「今」を入れるとすればどこに入れる。

(中村委員)

- ・「今」を入れるのはそれはサブテーマで、メインテーマが「原子力と浜通り」。

(木元座長)

- ・「原子力と浜通り、今」とか。

(小沢委員)

- ・「今、原子力をどう考えるか」はどうか。

(中村委員)

- ・問いかけになっていれば良いのではないか。

(小沢委員)

- ・そういうタイトルが一番簡単で良いと思う。

(齋藤原子力委員長代理)

- ・今の「浜通り」という言葉を入れることには少し抵抗を感じる。抵抗を感じるというのは、福島県は浜通り、中通り、会津の3地域があることを考えると、主催者は独断で福島県を分断して開催するのかと、そう受けとられないかを危惧するということである。中通りの方から反発されないか。

(木元座長)

- ・次は中通りで開催するなら構わないが、ということか。

(齋藤原子力委員長代理)

- ・会津も含めて3点セットになっていれば良いかもしれない。

(小沢委員)

- ・そのことが刺激になって議論がすごい勢いで盛り上がったら、それはおもしろいのではないか。

(齋藤原子力委員長代理)

- ・次は中通りでやろう、と言われるなら、それも良いかもしれない。

(木元座長)

- ・少し事務局で検討させていただいて、またご報告する。
- ・次に、小タイトルだが、これもお任せいただけるか。基本的には資料に書いた中から考える。特に、例えば「知りたい情報は届いているか」を副題にしたいとか、何か小タイトルについてが意見があれば伺いたい。

(中村委員)

- ・資料にあるものを踏まえて、案を幾つか出して欲しい。それにまたメールなりで答えるという形で。

(木元座長)

- ・○とか×とか、ご意見をまた書いていただければありがたい。
- ・次は、パネリストについて。今決めることはないが、i n 福島の検討を始めたときに、福島の各団体をお願いをして、候補を選んでいただくとか、テーマを書いていただくという案もあったが、浜通り、富岡の団体を中心に、いろいろな団体に呼びかけるか。ご意見を募集して、その中からパネリストを選ぶか。このご意見募集は前回と少し違うから分けて考えなければいけないが、浜通りの場合は浜通りの方たちの団体に呼びかけてこういうことをやるということをお知らせして、共催という形はとらないが、協力という形をお願いするという案があった。協力をお願いした団体からパネリスト候補を出していただく、そういう形もとっても良いか。

(中村委員)

- ・こちらから直接的に個人をお願いする方法もあり、併用が良いと思う。ある程度発言力のある方と、募集をして「発言なさいませんか」と呼びかけて入っていただく方と、どちらかではなくて両方そろえるつもりでいた方が良いと思う。

(木元座長)

- ・浜通り、富岡で開催するとして、我々の側で今だれか推薦する方はいるか。富岡が一番来てくださいという声が強いところだから、富岡で開催するのが無難だと思うが、その場合だれか。

(吉岡委員)

- ・具体的人名ではないが、たしか前々回、加藤委員が来ていて、加藤委員の主張では、高速道路と原子力発電は同じである。だから原子力と浜通りというテーマにしたとすると、高速道路建設予定地で会を開くような性格のものになりかねないということである。加藤委員ご自身がおやりになるか、別の人が中立的な立場、あるいはナショナルな立場、財政も踏まえた立場から冷水をかけるような議論をしていただくのも結構だし、そのような第三者的なスタンスで議論する人が少なくともパネリストには1名は必要だと思う。私がやっても結構である。

(木元座長)

- ・ 自薦、他薦があったが、加藤委員は今日は急なご用事らしくご欠席で大変残念である。一応、候補に挙げさせておいていただく。
- ・ あとどなたか特定の方は。

(中村委員)

- ・ 有識者ということで、地元の有識者をということも一つあると思う。僕が言った併用というのは、どちらかといったらそういう意味で、その方の活動であるとか、行動であるとかというのがある程度把握できて、こういうご意見をふだんからお持ちだということが分かっている方をまず選んでおくということが進行上は必要なんじゃないかなというのが僕の併用論です。

(木元座長)

- ・ 「i n敦賀」のときに、福井新聞の方に出ていただいた。ああいうふうに地元紙の方という選択はあるだろう。

(中村委員)

- ・ 私が言った有識者というのは、そういう意味ではなかった。

(木元座長)

- ・ 例えば、団体の人ということか。

(中村委員)

- ・ そうである。

(木元座長)

- ・ 女性でも良いということか。

(中村委員)

- ・ もちろんである。

(木元座長)

- ・ 一生懸命運動している人はいらっしゃる。

(中村委員)

- ・ 私が言った地元の有識者というのは、商工会議所の婦人部での活動をしているとか、そういう意味で、地元の一般の人に比べたら、社会性のある活動をしている方ということである。

(木元座長)

- ・ コアメンバーからどなたかパネリストとして入っていただくことはどうか。

(中村委員)

- ・ それは吉岡委員の案も考えておいたら良いのではないか。

(木元座長)

- ・ 検討していきたい。パネリストは、今まで大体3名だった。その範囲内、あるいはもう1名増やすかについても含めて、考えたい。
- ・ 開催日候補は、5月の半ばから終わりという感触だが、このあたりでよろしいか。3月に東京で1度開催すると、準備を考えるたら4月中は苦しい。5月半ば過ぎでよろしいか。
- ・ 会場については、例えば富岡町の中の会場ということで、少し当たっているが、会場としては、ホテルなどもある。

- ・ 規模は、200名ぐらいがよろしいか。

(小沢委員)

- ・ たくさんあると思う。

(木元座長)

- ・ i n 福島で開催計画については少しまだ不確定なところがあるが、事務局でまた案を作成させていただいて、メールなりファクスでお知らせさせていただくことにしたい。
- ・ プログラム案としては、また次の機会にできると思うが、今までのように市民参加懇談会について若干話して、なぜここでやることになったかという意味を話して、その後司会にお任せし、展開していく、そういう形でよろしいか。
- ・ 第1部、第2部と分けるというのは、今までのとおりで良いか。これももし違った方向が出るならば、修正はきくと思うので、そうさせていただきたい。
- ・ 司会進行はこの間、蟹瀬委員にやっていただいたように第1部と第2部を通してやって、割合なめらかにいったということがあるので、少し続けてみようかと思っているが、その辺はいかがか。

(松田委員)

- ・ 良いと思う。

(木元座長)

- ・ では同じ方法で、候補はまた後でご検討させていただきたいと思う。
- ・ 本日は4人の原子力委員に出ていただいた。

(近藤原子力委員長)

- ・ 感想を申し上げるというのは大変失礼になるが、正直な気持ち、大変熱心にご議論いただいたことに本当に感謝している。引き続きよろしくお願いしたい。

(齋藤原子力委員長代理)

- ・ コアメンバー会議に出席させていただいたのは初めてで、原子力委員はあまり発言しない方が良いでしょうと思う、今日はおとなしく伺わせていただいた。

(木元座長)

- ・ ある程度はご発言いただければありがたいと思う。

(小沢委員)

- ・ 議論が煮詰まるときに、煮詰まらないように、お願いしたい。

(前田原子力委員)

- ・ 初めて拝聴したが、意見が本当に飛び交っているという感じで、非常に活発な懇談会だということで感心した。これからもぜひ聞かせていただいて、時には発言もさせていただきたい。

(町原子力委員)

- ・ 私の印象は、一般の方々の意見を集める方法は、非常に難しいと思う。例えば、パネリスト一つをとってもどうやって選出するか、非常に重要な問題。
- ・ アンケートで意見を問うとかというようなこと、これはかなり公平だと私は思うが、いかにして意見を満遍なく、バイアスのかからない意見を集めるかというのが、多分市民参加懇談会の非常に大事なことの一つで、そのための工夫が大事であると思う。

(木元座長)

- ・ そう思う。

・ 本日はこれで終わらせていただきたい。ありがとうございました。

(3) その他
特になし

○本日の議論等より、長計についてご意見を述べていただく市民参加懇談会について、ワーキングメンバーの委員の意見を伺いながら、事務局がご意見募集の案を作成することとなった。

以 上